

ソウル 1964年冬

キム・スンオク
金承鈺短編集
青柳優子：訳

四六判 ハードカバー 240頁 ISBN978-4-380-15003-6 C0097 定価：本体2200円＋税



本邦初刊行。金承鈺自選短編集。

朝鮮戦争停戦後李承晩大統領が権力を掌握し続ける中、1960年にはそれまでの政治の腐敗に憤って立ち上がった学生によって4・19学生革命が大統領の下野というかたちで成功する。しかし、翌年5月には軍事クーデターが起きて軍事独裁政権に。政権に批判的な人士はスパイ・容共主義者の烙印が押されて連行され、過酷な尋問に苦しめられることも多々あった。

厳しい軍事独裁政権を生きぬいた秘かな芸術的抵抗としての代表作『ソウル1964年冬』これこそ、金承鈺文学の特徴であり特筆すべきものである。

◎収録作品◎

1. ヤギは力が強い
2. 乾(ケン)
3. お茶でも一杯
4. 霧津紀行
5. 力士(力持ち)
6. 夜行
7. 妹を理解するために
8. 彼と私
9. ソウル1964年冬

※ 巻末に作品解説と年譜を付す

金承鈺 (Kim Seung-ok)

4・19世代(ハングル世代)作家と呼ばれ、1960年代の韓国文学を代表する作家。

1941年、大阪に生まれ、1945年帰国。1962年、文壇にデビュー。

1965年、「ソウル1964年冬」で東仁文学賞を受賞。

1977年、「ソウルの月光0章」で李箱文学賞受賞。

『ソウル1964年冬』(創文社、1966)、『危険な顔』(知識産業社、1977)、『霧津紀行』(世界文学全集149(民音社、1980))、『金承鈺小説全集(全5巻)』(文学トンネ、1995)など。

青柳優子 翻訳家

1997年、崔元植『韓国の民族文学論』で第32回日本翻訳家協会翻訳出版文化賞受賞。

2005年、黄皙暎『懐かしの庭』で第7回韓国文学翻訳院翻訳大賞を受賞。

著書に『韓国の女性文学研究I』(御茶の水書房、1997)、編訳著書に『朝鮮文学の知性・金起林』(新幹社、2009)、訳書に黄皙暎『パリデギ』(岩波書店、2008)、白石『白石詩集』(岩波書店、2012)など。

三一書房注文書	書店・番線印	委託	<h1>ソウル 1964年冬</h1> <p>キム・スンオク 金承鈺短編集 青柳優子：訳</p>	四六判 ハードカバー 240頁 ISBN978-4-380-15003-6 C0097 定価：本体2200円＋税	9月発売予定
		冊			